山内隆 ＜巡礼。何処其処＞　iGallery DC　2022 年 6 月 2 日（木)～6 月 19 日（日）

本展は長崎（出津、神ノ島、浦上）ほか、幾つかの巡礼にまつわる地域の取材で、構成されている。

【あるたてもの】⑬

七年ぶりに長崎の出津を訪れてみた。前回は世界遺産登録前、今回は登録後だが、駐車場が若干整備されたくらいで出津教会(*1)近辺の雰囲気はほとんど変わっていない。出津を歩いていると、大昔に亡くなったド・ロ神父(*2)が、今もそこにいるような感覚に陥ってくる。

【出津の石】【出津のいし】 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑫

出津には雲母のような黄金色に光るスレート状の石とガラス質の白い石があちこちに落ちている。ド・ロ神父が考案した壁をド・ロ様壁といい、石灰を介して積まれた石垣の中に白い石が点在いることで、壁面は絵画的な雰囲気を醸し出している。二種の石を直感で採取し小包にして持ち帰ったところ、自宅に同じ石の入った木箱を見つけた。七年前にも同じように採取していたということだ。当時はそのまま何もできず、記憶からすっかり抜け落ちていた。物忘れもいいものだと、光る石を手に取り眺めた。

【ある聖人 / こどもの声 / 神ノ島 / 長崎】 ⑦

神ノ島はかつて潜伏キリシタンの島だったが、埋め立てが進み現在は陸続きとなっている。神ノ島教会は海沿いの工業地帯の一角の斜面に建っており、そこにいると近くの幼稚園児たちによる大きな歌声が聞こえ、外れたキーと無邪気さが混じり合ったその歌声に、思わず笑わされてしまう。教会には 14 歳で亡くなったドミニコ・サヴィオという、ある若い聖人の像が建っている。彼は子供たちの守護者だ。

10 代の頃は石膏デッサンの意味がわからず、沢山のギリシャ彫刻の解釈に悩まされたものだが、近頃は旅の途中に、お稲荷さんや、御神犬、地蔵、観音像、聖人像など、沢山の作者不明の像に出会っては心惹かれている。

【閃光 / 彫像 / 浦上天主堂 / 長崎】 ⑧

浦上教会は原子爆弾の落下中心地碑のすぐ近くに建っている。凄まじい閃光とともに教会は一部を遺してそのほとんどが吹き飛んでしまった。教会周辺には、被曝し崩れた彫像やその頭部があちこちに配置されている。

【巡礼 / いぬ】 ⑩

台湾の阿里山に向かったのは 2019 年だったか。統治時代の日本の社寺の巨大な柱は阿里山から切り出され、山岳鉄道で運ばれ、日本に持ち込まれたといわれている。当時 巡礼の旅では決まって出会うのは野放しになっている犬達だった。阿里山でも二匹の犬が僕に追従した。一匹の犬はカップ焼きそばの器をずっと口にくわえていた。どの国でも、だいたいの犬が口に何かをくわえているが、日本で出会う犬はなにもくわえていない。

【マリア観音 / 加計呂麻島】 ① ⑪

奄美の加計呂麻島、西阿室教会にあるマリア観音は、いわゆる潜伏キリシタンが秘密裏に拝んでいた像とは異なる存在である。戦後、島内の観音像が、島の占者の娘の夢に現れて「マリアぞよ」と、のたまわったとのお告げがあり、その集落を布教の場としたところ、島内に信者が一気に増えたとある。加計呂麻島のマリア観音は教会献堂当初から礼拝堂のシンボル的存在なのである。

観音像が安置されている教会には二度ほど訪れている。一度目は宿の予約を間違え、路頭に迷っていたところ、教会に泊めてもらえることになった。二度目の取材では観音像のある聖堂内で、荒波による中型フェリーの運航休止の島内放送を聞いた。奄美大島に戻れず困っていたところ、大型の貨物船に鉄屑や資材と一緒にレンタカーごと載せてもらえることとなり、かろうじて帰ることができた。

*1　出津教会

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」を構成する「外海の出津集落」に包括される教会。

*2　ド・ロ神父

禁教が解かれたのち、フランスから来たド・ロ神父はキリスト教宣教活動の傍ら、私財を投げ打ち、貧困に苦しむ人々のため社会福祉活動のためにその人生を捧げた。出津ではド・ロ神父が考案した壁や、作業所、海外から持ち込んだ先端の道具が保存されており、技術提供が行われた記録が博物館に残っている。日本で亡くなり、出津に墓がある。